

平成 13 年 度

標準化活動報告書

平成 14 年 4 月



社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会
Japan Business Machine and Information System Industries Association

標準化センター

目次

1.標準化センター	-----1
1.1 はじめに	-----1
1.2 戦略プロジェクト	-----2
1.3 JBMS 推進小委員会	-----5
1.4 UI デザインプロジェクト	-----5
1.4.1 全般	-----5
1.4.2 ステアリングチーム	-----7
1.4.3 ビジュアルランゲージ(VL)WG	-----7
1.4.4 UI用語WG	-----9
1.5 ユニバーサルデザインプロジェクト	-----10
1.6 カラーマネージメントプロジェクト	-----11
1.7 JIS原案作成委員会	-----11
2.部会標準化活動	-----13
2.1 複写機部会（複写機技術分科会）	-----13
2.2 カード及びカードシステム分科会（標準化分科会）	-----14
2.3 流通情報システム機器部会（技術分科会）	-----16
2.4 モバイルシステム部会（標準化分科会）	-----16
2.5 データプロジェクト部会	-----17
2.6 ページプリンタ部会	-----17
[付録] 標準化委員会の対外活動	-----18
添付資料 1「ユニバーサルデザインを巡る最近の動向」	
添付資料 2「カラーマネージメントの標準化動向」	

1.標準化センター

1.1 はじめに

(社)ビジネス機械・情報システム産業協会 標準化センターとしての、最初の活動報告書をここに発行する。産業界に於いて標準化活動の重要性がますます増加し、組織的に標準化を推進する必要性が高まったことから、平成 12 年度に標準化センター準備プロジェクトを通して設立準備を進め、平成 13 年(2001 年)5 月 15 日第 1 回標準化会議を開催し、標準化センターが活動を開始した。

初年度の活動として、体制・制度の整備を進め、これは「標準化センター運営規定」として制定作業を進めた。また、「標準化会議」と「幹事会」による運営体制の整備、「戦略プロジェクト」と「実行プロジェクト」への改組などにより、実行・推進体制の強化をはかった。

また、JBMA 内・外との連携の強化を進めた。JCIA(日本写真機工業会)フォーマット分科会へオブザーバ参加し、カラーマネジメントプロジェクトメンバーが出席した。この活動は、JCIA が原案作成を行った規格案を、JEITA 規格として発行する手順を支援する活動につながった。

特記すべき活動に、JBMA 標準化活動成果報告会の共催があげられる。2001 年 7 月 19 日、カード部会、ISO、IEC 国内委員会で開催し、132 名の参加者を集めた。標準化センターとしては、ユニバーサルデザインとカラーマネジメント標準化に関する報告を行った。これら、個別の委員会報告に盛り込まれていない項目は、付属として報告する。

1.2 戦略プロジェクト

(1) 活動概況及び活動成果

JBMA の標準化戦略の枠組みは、標準化センター準備プロジェクトで検討した 4 つの分野の枠組み、「画像関連分野」、「デザイン関連分野」、「環境・品質分野」、及び「支援活動」に沿ってそれぞれ戦略を検討して平成 13 年度版の標準化戦略を作成した。

背景と標準化戦略のフレームワーク

- ・ 標準化の国際的な動向の配慮
 - EU の標準化政策：消費者サイド、環境面
 - 米国の IT 産業支援政策：デファクトスタンダードと標準化政策
 - WTO/TBT、E-Japan、MRA などの国際ルール
- ・ 標準化を作成するにあたり、我が国の標準化戦略、分野別標準化戦略、経済産業政策等の考慮
- ・ 我が国の標準化戦略の 3 つの重点
 - 市場適合性及び効率性の確保
 - 戦略的な国際標準化活動の推進
 - 標準化活動と研究開発の一体的推進
- ・ 分野別標準化戦略の重要標準化分野
 - 情報分野、環境保全、消費者対応、高齢者障害者対応、安全確保
- ・ E-Japan戦略
 - 超高速ネットワークインフラ整備と競争促進、電子取引と環境整備、電子政府、人材育成
- ・ 14年度経済産業政策
 - 技術革新・新ビジネス展開、IT社会への対応、消費者行政・中小企業育成、環境・エネルギー問題
 - JBMAにおける重点課題と標準化センターの対応
- ・ 創成検討委員会によるJBMAの重点課題として次の課題が挙げられた。
- ・ 新たなビジネスドメイン、新市場、新分野への挑戦
 - 次世代オフィスシナリオの作成
 - 知的生産性向上に資するドキュメントコンセプト提案
 - モバイル世紀への取り組み
- ・ 新たな事業展開
 - 静脈物流（交換センター）の全国展開
 - 環境ラベルに関する基本姿勢確立
 - アクセシビリティガイドラインの拡充
 - アジア諸国との協力関係構築
- ・ 創生に向けた制度・組織の改革

標準化戦略

の方針を考慮して、標準化センターの戦略の枠組みを決めた。

- ・ 標準化センター設立の趣旨
 - 事務機械分野における国際標準化の主導権確保(国際標準の提案・発信)
 - JBMAの標準化活動の統合・連携

・標準化戦略の枠組み

背景と方向性	JBMA標準化戦略
IT化の促進への対応 IT分野でのJBMAの主導権 デファクトスタンダードへの対応 生産国として妥当な標準の必要性	画像関連分野 IT関連、新分野
社会・環境問題、消費者ニーズの高まり 人間中心志向のオフィス機器 高齢者対応等、社会ニーズの高まり 消費者保護、品質・性能への関心 品質・環境への対応	デザイン関連分野 環境・品質関連分野
JBMA標準化活動の統合・連携 国際化対応	支援活動

標準化課題

各分野毎に短期(2-3年)と中長期(5年～)に対応する課題と目標を掲げた。

分野	項目	具体的テーマ	短期目標	中長期目標
IT、 画像関連	画像関連標準化	カラーマネジメン ト 画質関連	標準化マップ作 成 SC28との協調	カラーマネジメ ント規格の統合
IT、 新分野	BMLinkS カードシステム モバイルシステム eコマース	BMLinkS仕様書 カードシステム モバイル関連標準	仕様書の普及 用語のJIS 位置情報、ユー ザIF	デファクト標準 の普及
バリアフリ ー アクセシビ リティ	UDの推進 ユーザIF 人間中心設計プロ セス	アクセシビリティ 関連ユーザIF アクセシビリティ 指針	対応ユーザIFの 特定とアプロー チ検討	日本版ガイドラ イン作成
環境・品質	環境関連の標準化 品質・性能関連の標 準化	環境関連標準化 画質関連標準化 性能関連標準化	環境用語 カラーテストチ ャート	日本提案
国際化協調 活動	標準化積極推進 JBMA内の協調	SC28のサポート 透明性の確保 情報発信	アジア圏セミナ ー 手続き整備 ビジネスプラン	国際提案

標準化推進体制

標準化テーマ推進体制と支援体制について、役割と具体的なフローを作成した。

(2) 今後の課題

来年度は、戦略策定の充実を図る。標準化課題及び標準化活動について調査活動をすすめ、各分野毎の具体的な課題の精査と戦略を策定する。

委員会・部会の標準化活動テーマリスト

テーマ名	2001 年度	2002 年度	2003 年度	2004 年度	備考
国際標準原案作成 1) データプロジェクタの仕様書様式 2) 静電複写機の仕様書様式 3) RGB 入力カラープリンタの色特性測定方法 (IEC 61966-7-1 : 2001) 4) モバイルツールのための UI 規格(Project18021)	IEC 規格発行済み 				
JIS 原案作成 1) ISO/IEC 10373-1 & 2(識別カードの試験方法-通則&磁気カード)の JIS 化 2) ISO/IEC 10373-5(識別カードの試験方法 - 光メモリカード)の JIS 化 3) ISO/IEC 15775(アナログテストチャートによるカラー複写機の画像再現性能評価方法)の JIS 化 4) ISO/IEC 14545(複写機の生産性を測定する方法)の JIS 化 5) カード及びカードシステム用語原案作成 6) データプロジェクタの仕様書様式原案作成 7) 静電複写機の仕様書様式原案作成 8) JIS X6301、6302 及び 6302 補足版改正(IDカードの物理特性ほか) 9) JIS X6306(業際間の共通コマンド)改正 10) IEC60950 第 3 版「情報処理機器の安全性」 11) IEC60990 タッチカレント測定方法 12) IEC61966-7-1 RGB 入力カラープリンタの色特性測定方法	 4)は原案提出済み 	 ・ 8) 9) は調整未了 	 ・ 11) 12) の JIS 化 (調整未了) 		

1.3 JBMS 推進小委員会

(1) 活動概況

新規 JBMS 案のエディット (2001 年 4 月)

- ・ JBMS-70 「デジタル印刷機用語」の提案があり、平成 12 年度に改正した JBMS-27 「日本事務機械工業会規格の作成基準」を基に原案のエディットを終了した。

JBMS 改正案のエディット

下記 4 件の改正案のエディットを終了した。

- ・ JBMS-33 「静電複写機用周辺機器の仕様書様式」(2001 年 7 月)
- ・ JBMS-8 「静電複写機仕様書様式」(2001 年 11 月)
- ・ JBMS-18 「電子式金銭登録機用語」(2001 年 12 月)
- ・ JBMS-23 「電子式金銭登録機の仕様書様式」(2001 年 12 月)

(2) 主要成果

年度中に小委員会を構成する各社のメンバー全員が交代し新メンバーとなった中で、5 件の JBMS 案をエディットすると共に、委員会の今後のあり方及び活動内容について検討を重ねて来た。

(3) 今後の活動

各委員会・部会で作成した JBMS の制定原案及び改正原案の様式審議および修正意見の具申。
JBMS の維持・管理及び運営に関する基盤整備。
標準化に関する外部情報の収集と情報交換。

1.4 UIデザインプロジェクト

1.4.1 全般

(1) 活動概況

オフィスの事務情報機器において、異なるメーカーの機器の併設や他メーカーの機器への置き換えなどの際、ユーザーが操作に迷ったり、使い方を間違えるという問題がある。また、米国リハ法508条などアクセシビリティに関する法規制の動きが急である。このような背景の元、複写機・複合機を対象に、標準化の効果が高いもの、緊急性を要するものから、UIデザインの標準化を検討、推進している。

標準化センターデザイン関連戦略プロジェクトにキーメンバが参画し、標準化テーマ検討に貢献した。

新規標準化テーマ探索のため、UI専門家による講演会を実施。

2002年度のJBMA新体制発足に伴い、新しいロゴデザイン案を検討・提案し採用された。

以下の3グループにより活動している。

- (A) ステアリングチーム
- (B) ビジュアルランゲージ(VL) WG
- (C) UI用語WG

(2) 主要成果

全体

- ・UIデザインプロジェクトのステアリングチーム選抜メンバと、VL-WG主査、UI用語WG主査

が

デザイン関連戦略プロジェクトに参画し、今後の標準化テーマ候補案を提案した。検討の結果、以下の二つのテーマが抽出された。

- ・J508条対応
- ・BMLinkS UI標準化

ステアリングチーム

- ・BMLinkSのUI標準化検討、情報システム化促進総合調査報告書からの課題抽出検討などを通

じ

標準化テーマ候補を検討。

- ・ネットワークシステムのUI標準化に向けて、UI専門家の講演会を開催し、コンサルティングを受けて検討を開始。

ビジュアルランゲージ(VL)WG

- ・2002年度のJBMA新体制発足に伴い新しいロゴデザイン案を検討・提案。
- ・標準化テーマ候補案検討。
- ・図記号デザイン基本原則ガイドライン検討。
- ・新規図記号提案/ステーブル関連検討。
- ・ユーザが触る部分の示唆（操作箇所指示）について検討開始。

UI用語WG

- ・標準化テーマ候補案検討。
- ・UI用語作成ガイドライン（JBMA-TR-5）の発行完了。
- ・MFP用語（コピー機能、プリンタ機能）の標準化検討。
- ・J508条のUI用語テーマの検討。

(3) 今後の活動

全体

- ・デザイン関連の標準化案検討：複写機・複合機を対象に、ユニバーサルデザイン、アクセシビリティ法規制、BMLinkSなどを考慮し、標準化の効果が高いもの、緊急性を要するものから優先度を設け標準化案を検討する。

ステアリングチーム

- ・ネットワークシステムのUIデザイン標準化
- ・リハ法 J508条対応
- ・BMLinkS UI標準化対応
- ・国際標準化への取組み

ビジュアルランゲージ(VL)WG

- ・リハ法 J508条対応
- ・BMLinkS UI標準化対応
- ・図記号デザイン基本原則ガイドライン作りと新規図記号標準化

- ・他図記号関連審議体とのリエゾン

UI用語WG

- ・リハ法 J508条対応
- ・BMLinkS UI標準化対応
- ・MFPのUI用語標準化

1.4.2 ステアリングチーム

(1) 活動概況

標準化センターデザイン関連戦略プロジェクトにキーメンバが参画し、標準化テーマ検討に貢献した。

新規標準化テーマ探索のため、UI専門家による講演会を開催。

2002年度のJBMA新体制発足に伴い、新しいロゴデザイン案作成のための調整・評価を実施。

(2) 主要成果

BMLinkSのUI標準化検討、情報システム化促進総合調査報告書からの課題抽出検討などを通じ、以下の標準化テーマ候補を選定。

- ・MFP基本機能 図記号/アイコン/用語 (LCD、クライアント)
LCD表示文字/アイコンサイズ、パネル上の図記号/文字サイズ、
操作音、LED色/点灯/点滅、プリンタ/スキャナドライバ等

デザイン関連戦略プロジェクトにより以下の二つのテーマが決定された。

- ・J508条対応 ・BMLinkS UI標準化

上記二つのテーマに関し具体的な作業を行う条件が整わず、今年度は情報収集に留まった。ネットワークシステムのUI標準化に向け講演会とコンサルティングを受け、検討を開始。

(3) 今後の活動

ネットワークシステムのUIデザイン標準化

リハ法 J508条対応

BMLinkS UI標準化対応

国際標準化への取組み

1.4.3 ビジュアルランゲージ(VL)WG

(1) 活動概況

2002年度のJBMA新体制発足に伴う新しいロゴデザイン案の創作と検討及び評価。

デザイン戦略PJへの参画による新テーマの探索と提案。

図記号デザイン基本原則ガイドラインの「意味分類」を記述ルールに基き審議し作成。

新規図記号の提案と検討及び標準化。

示唆図記号に関する現状調査及び検討。

他図記号関連審議体とのリエゾン (JEITA図記号専門委員会、IEC TC3/SC3C国内、JTC1/SC35国内等)

(2) 主要成果

新組織ロゴ

- ・2002年度のJBMA新体制発足に伴い、新しいロゴデザイン案を検討、提案した。正式な決定手順を経て、4月に採用される予定。

JBMAデザイン戦略PJにおける今後のVLWGテーマ検討

- ・VLWGでは、以下3テーマをデザイン戦略PJへ提案。
 - (A) 既存図記号の整理と新規図記号の標準化
 - (B) 図記号の評価基準と方法
 - (C) LCD表示文字、アイコンの標準化

図記号デザイン基本原則ガイドライン検討

- ・「意味」分類において内容、考え方、関連図記号などの内容審議継続。TR化を目指す。
- ・記述ルールを設定し、記載内容の整合をとる。
- ・図記号ガイドライン担当分類表を作成し完成度の把握を実施。

新規図記号提案/ステーブル関連

- ・ステーブル図記号に関する標準化検討を行った。
- ・ステーブル、ステーブル補給、ステーブルづまり、ステーブル除去等の検討実施。ステーブル補給のデザイン案を決定した。

ユーザが触る部分の示唆（操作箇所指示）について

- ・富士XEROX / MINOLTA / CANON / RICOH / SHARP他各社の現状表記を紹介。
- ・今後、標準化テーマとして検討していくことに決定。
- ・仮称はユニバーサル・シンボルとする
- ・各社アクション/シーン/ビジュアル等の調査を予定
- ・デザイン戦略PJミッションの508条対応として、このテーマとして掲げ審議検討し標準化を図る

「JISZ0150-2001包装貨物の荷扱い指示マーク」の紹介と検討

- ・上積み段数制限マークについて
- ・本JISの指示マークは分かり辛いので、各社の表記調査結果を元に対応を検討する

「IEC60417-5017(アース)」について

- ・各工業会の調査結果
 - ・JEITA：4社で使用実績あり。配線器具工業会：コンセントに関し欧州、アジア向けに実績あり。

り。

- ・IECではIEC60950-1.7.7.1保護接地端子の規格自体の抹消を検討しており5017の使用状況が不明確な為、本図記号が削除対象となった。（審議中）
- ・JBMA：コニカ、富士ゼロックス、リコー3社で使用実績あり。
- ・提出意見
 - ・JBMA参加会社、他工業会で使用実績があるので、JBMAとしては「5017削除反対」を意見とし、SC3C国内委員会に提出済み。今後はIEC SC3Cの動きをみることにした。

「ISO 7000/FDIS」

- ・ISO/TC145/SC3の中央事務局よりSC3国内委員会に届いた「ISO 7000/FDIS」に関し、内容の検証を実施し、検討結果をSC35国内委員会を通じISOに提示した。提示内容は以下。

- ・表題の正誤
- ・図記号のドローイングの評価
- ・記載図記号の不整合等

(3) 今後の活動

J508条対応関連の図記号検討（予定）

図記号デザイン基本原則ガイドラインの「形状分類」の検討とTR化

新規図記号の提案と標準化

図記号の評価基準と方法の検討

LCD表示文字、アイコンの現状分析と検討

他図記号関連委員会情報の紹介と情報交換

1.4.4 UI用語WG

(1) 活動概況

JBMAデザイン戦略PJにおける今後のUI用語WGテーマ検討

- ・今後の用語WGの活動テーマについて、デザイン関連戦略PJに提案を行った。

UI用語作成ガイドライン（JBMA-TR-5）の発行

- ・2000年度に取り組んできた上記テーマについて、TR誌を発行した。

MFP用語の検討

- ・MFPの機能（コピー、プリンタ、スキャナ、ファクス）のUI用語の標準化検討を実施した。

J508条対応の検討

- ・J508条に対応したUI用語ガイドラインが必要と想定し、UDプロジェクトに対し検討テーマとなりうる項目を提案した。

(2) 主要成果

JBMAデザイン戦略PJにおける今後のUI用語WGテーマ検討

- ・UI用語WGでは、以下3テーマをデザイン戦略PJへ提案。

(A) MFP用語（本体操作パネル）の標準化

(B) MFP用語（クライアント操作画面）の標準化

(C) 用語の評価基準

UI用語作成ガイドライン（JBMA-TR-5）の発行

- ・ユーザーにわかりにくい用語を生み出さないための基準づくりを実施。

- ・計29項目をJBMA-TR-5として7月に発行した。

MFP用語の検討

- ・2001年度はコピー機能とプリンタ機能を中心に各社で使用されている用語の一覧表を作成。

- ・2002年2月現在、本体側、クライアントPC側合わせて92項目を検討中。

- ・検討していく中で、用語判定の客観的な基準づくりが必要と判断し、外部委託による研究および基準づくりを行った。

J508条対応の検討

- ・UDプロジェクトに提案した項目例

「カタカナ表記の長音の問題について」

「スペースの問題から縮められた造語の問題」
「表記文字をそのまま読み上げることが適切か？」
など

(3) 今後の活動

MFP用語の検討

- ・ MFPの機能（コピー、プリンタ、スキャナ、ファクス）のUI用語の標準化検討を継続。2002年度は、前年度のプリンタ機能の検討の継続と、送信機能であるスキャナおよびファクス機能に関する標準化の検討を行う。
- ・ ファクス機能用語はCIAJとの絡みもあり、進め方に検討が必要。
J508条対応用語の検討（予定）
- ・ UDから依頼されると思われる音声ガイド対応に関する用語の検討を行う。
BMLinkS対応用語の検討（予定）
- ・ BMLinkSに関する用語（機能名称、ドライバー用語）の検討を行う。
ユーザークレーム用語の検討
- ・ 既に各社そろってはいるが、ユーザークレームのある用語に対する検証を行う。

1.5 ユニバーサルデザインプロジェクト

(1) 活動概況

「ガイドライン WG」

- ・ 政府調達に資するアクセシビリティJISを目的とした、情報バリアフリー標準化委員会（事務局：日本規格協会）に参加し、積極的な提案活動を行うとともに、製品分野別業界基準案を作成した。また、JEITAとも協調活動を行った。
- ・ 複写機&情報機器のアクセシビリティガイドラインを作成した。

「標準化 WG」

- ・ 「事務機器における報知音」の業界標準化のための検証作業を行い、報知音ガイドラインを作成。現在は、JBMS化を進めている。

(2) 主要成果

JBMA 報知音ガイドラインと JBMS の予定

JBMA アクセシビリティガイドライン

(3) 今後の活動

情報バリアフリー標準化委員会及びWGに参加し、アクセシビリティ関連のJIS化作業を行う。
JBMA 所轄機器のアクセシビリティ基準に対する適合認証、適合告知方法を検討する。

1.6 カラーマネジメントプロジェクト

(1) 活動概況

カラープリンタのカラーマネジメントに対するユーザーの要求に答え、またユーザーズガイド等による適切な情報提供を目的として、課題を整理・明確化するための標準的な手段の開発（物理チャート、評価方法、画質特性値）、課題改善のためのガイドの作成・配布を狙って活動中。参加社数 17 社（国内ページプリンタメーカーの殆どを網羅）

カラープリンタのカラーマネジメントに対する国内外の団体との活動・連携を円滑に進めるため、積極的に活動内容を学会で発表したり雑誌に投稿している。[国内発表 3 件、海外発表 1 件（SID）]

カラーマネジメント活動の強化・効率化を目的にカラーマネジメントプロジェクトと SC28/WG6 の統合を決めた。

(2) 主要成果

国際規格として提案していた IEC61966-7-1 (RGB 入力カラープリンタの色特性測定方法) が 5 月に発行された。

“プリンタ カラーマネジメント ガイド” を作成中であり、4 月に発行予定。

(3) 今後の活動

カラーマネジメントプロジェクトと SC28/WG6 を統合し、平成 14 年度から新しい体制で具体的なテーマなどの調整を行う。

IEC61966-7-1 の JIS 化を行う。

1.7 JIS 原案作成委員会

(1) 活動概況

JBMA 自主案件として、次の 2 件の JIS 原案作成活動を推進及び支援を行った。

・ JIS X 6934 情報技術 - 事務機器 - 複写機の生産性を測定する方法 (Information Technology - Office equipment - Method for measuring copying machine productivity) を ISO / IEC14545 : 1998 の一致規格として、SC28/WG3 の委員が中心になって原案を作成し、平成 13 年 6 月 25 日に経済産業省に提出した。

・ JIS X 6911 データプロジェクタの仕様書様式 (Minimum information to be included in specification sheets - Data projector) をデータプロジェクタ部会の委員が中心になって原案を作成し、平成 13 年 12 月 26 日に経済産業省に提出した。

今後、SC28 国内委員会経由で IS 提案を行う作業に着手する予定になっている。

平成 13 年度の財団法人 日本規格協会の公募案件として、次の 5 件の JIS 原案作成活動を推進・支援した。これらの原案を平成 14 年 3 月下旬に日本規格協会に提出の予定。

- ・ JIS X 6305 - 1 識別力 - ドの試験方法：パート 1（一般的特性の試験）の制定：

ISO/IEC 10373-1:Identification cards-Test methods-Part 1:General characteristics tests との一致規格。

- ・ JIS X 6305 - 2 識別力 - ドの試験方法：パート 2（磁気ストライプカード）の制定： ISO/IEC 10373-2: Identification cards-Test methods-Part 2:Cards with magnetic stripes との一致規格。（上記の 2 規格は 1998 年 2 月に IS が発行された。）

- ・ JIS X 6305 - 5 識別力 - ドの試験方法：パート 5（光メモリカード）の制定： ISO/IEC 10373-5: Identification cards-Test methods-Part 5: Optical memory cards との一致規格。（H10 年 12 月に発行された。）

- ・ JIS X 6901 「カード及びカードシステム用語」の制定。今後、SC17 国内委員会経由で IS 提案を行う可能性はある。

- ・ JIS X 6933 「情報技術 - 事務機器 - テストチャートによるカラー複写機の画像再現性能評価方法」の制定： ISO / IEC 15775 : 1995(Information Technology - Office machines - Method of specifying Image reproduction of color copying machines by analog test charts - Realization and application を一部変更した規格。

(2)主要成果

平成 11 年 3 月の JISC で審議され、その後、旧郵政省から修正意見が出され、制定が遅れていた JIS X 6850「情報技術機器の安全性」が経済産業省標準課及び第 74 委員会の協力を得て、漸く平成 13 年 11 月 20 日に制定された。

(3)今後の活動

平成 14 年度の財団法人日本規格協会公募案件 10 件に対して、JIS 原案作成委員会の立上げ・推進及び支援活動の実施。

2. 部会標準化活動

2.1 複写機部会（複写機技術分科会）

(1) 活動概況

複写機部会では、複写機に関わる JBMS(案)、JIS(案)の作成、改訂などの標準化活動に関しては、当技術分科会が担当している。また、国際エネルギースタートプログラムを初めとする省エネ関連規格等、新規基準類に関する対応についても当分科会が担当し検討を行なっている。(98年度の省エネ法トップランナー方式による基準改定にも参画、従事した)

平成 13(2001)年度の標準化活動としては平成 12 年度からの継続テーマである JBMS 規格改訂作業、省エネ法ガイドラインの見直し、更に香港の省エネラベルスキーム関連の検討を行なった。また、米国 ASTM の消費電力測定標準の改訂も行なった。

(2) 主要な成果

静電複写機仕様書様式(JBMS-8)及び、周辺機器の仕様書様式(JBMS-33)の改訂

従来、アナログ機に関する記載が中心だったので、デジタル機及びフルカラー機に特有な項目の追加を主眼に作業を行なった。更に、複合機として主な拡張機能であるプリンタ・FAX・スキャナーに関する仕様の規定も付属書として追加した。

周辺機器の仕様書様式についてもデジタル化を念頭に新たにフィニッシャーの仕様書を独立させ、中とじ、Z 折り等の項目を規定した。各々の仕様書は発行済。

2006 年省エネ法ガイドラインの見直し

このガイドラインは、改訂省エネ法のトップランナー基準という高いハードルに対して 7 年のリードタイムを有効に活用し前向きに挑戦する意識を誘導するために自らに課した自主的な規制(協定)であり、ユーザーの使い勝手を損なわない視点での省エネモードに関する規定です。

しかし、昨年 4 月、グリーン購入法が省エネ法基準を取り入れて成立しました。これは 2006 年基準の実質的な前倒しであり、リードタイムの有名無実化を意味しています。更には昨年末にグリーン購入法の見直し改訂があり、高速機区分に於いても省エネ法基準の採用がなされるに到り、業界内での適正なるガイドラインの維持運用を図るべく、緩和可能な範囲について見直し検討して改訂を行ないました。

香港省エネラベルスキーム(複写機版、更に MFD 版)の検討

例外規定を含め、国際エネルギースタートプログラム複写機基準に準拠することの業界要望は全面的に認められた。更に懸案の測定サイトの認証問題に対しても JBMA 認定の新提案方式が容認(*)され、昨年 4 月の香港当局担当官によるメーカー(3 社)測定サイトの見学、並びに JBMA 訪問で最終合意をみた。

(*) ; 各社測定サイトに於ける ISO/IEC17025 の取得等の要求が回避された。

MFD(複合機)版についても国際エネルギースタートプログラム基準の準拠を要望した。こちらは複写機版の検討経過を踏まえ懸案問題も無くスムーズに進行し、昨年 9 月に香港当局主催の会議に

於いて詳細を詰め、業界要望通りのドラフト最終案で合意することができた。

米国 ASTM F757(複写機の消費電力量の測定方法)の登録

省エネモードが組み込まれた改訂版 F757-94 の不具合の指摘を手始めに不明瞭な記載内容に関しての問い合わせ等、米国検討委員会と折衝が開始された。(99 年末)

しかし、期待のもてる改善や進展が見られないため、こちらから新たな改訂案について検討し提案を行った。(00 年 11 月) この改定案に対して更に米国検討委員会の要請もあり ASTM 書式に沿った形でドラフト案の作成を行い提出した。(01 年 4 月) その後、検討委員会及び親委員会等で 2 回の投票が行われ、その結果として改訂案が承認された旨の連絡が、昨年末(01 年 12 月)に委員長 Dr. John Wyhof から届いた。

本年 2 月に F757 01 として改訂、正式に ASTM に登録された。

(3)今後の活動

JBMS 規格の改訂

現在、複写機の性能試験方法(JBMS 19)の改訂作業を行っている。

更に、予定されている複写機用語(JBMS 1)に関しては、1985 年版から改訂が見送られているため、早急に改訂作業に着手する必要がある。

省エネ法エネルギー消費効率の測定方法の検討

省エネ法の複写機に於いては 2006 年に基準適合に関する判定が行なわれるが、COP 3 の目標達成は厳しい状況であり、更なる基準の改定や対象範囲の拡大を想定して措く必要がある。特に、デジタル複合機やフルカラー機については 2006 年の先の将来を見据えて、エネルギー消費効率の測定方法・条件等に関し検討準備を始めることが肝要である。

国際エネルギースタープログラムの改訂検討

デジタル複写機の急速な進展でプリンタ等の拡張機能を有する MFD(複合機)版とプリンタ(Fax 複合機を含む)版基準を融合すべきと考える気運が、今後、強まってゆくことが予想される。一昨年(00 年)、プリンタ版の改定が実施されたことで、次回の MFD(複合機)版の改訂では、これを睨んだものとなることが想定される。

また、プリンタ版の改定の中では、カラープリンタの独立基準が新たに追加されたが、現行の複写機版・MFD(複合機)版は白黒機の基準であるため、同様の課題や基準策定を要望する状況にある。早急にフルカラー機に対する基準策定が重要である。

2.2 カード及びカードシステム部会 (標準化分科会)

(1) 活動概況

カード及びカードシステム部会は、カード製造及びカード関連ソフトウェアなどのメーカーから構成され、カード及びカードシステム業界の健全な発展を推進することを目的として活動を進めている。活動組織は、カード需要予測分科会、リーダ・ライタ需要予測分科会、標準化分科会、WG11 (海

外調査)及びWG5(普及促進)の3分科会と2WGに分かれており、標準化活動は標準化分科会によって行われている。

平成13(2001)年度の標準化分科会は、JBMS-56『カード及びカードシステム用語』をベースにした『JIS X 6901 カード及びカードシステム用語』原案作成の中心的役割を担った。

7月19日に当工業会の標準化関連の成果発表会で「ICカードシステム導入の栞」の利用方法を講演した。講演後に複数の団体から「ICカードシステム導入の栞」を利用したいとの問い合わせがあり、部会にとって標準化の手応えを感じた。

(2) 主要成果

平成13年度活動は、『JIS X 6901 カード及びカードシステム用語』原案を作成した。以下に、制定の経緯及び概要を述べる。

JIS 制定の経緯と審議経過

識別カード(IDカード又はカードという)は、銀行カード、交通カードなど生活に欠かせないものだが、カタログ、説明書、仕様書などで用語の混乱が見られたので、カード関連用語の制定が必要であった。(財)日本規格協会から委託を受け、当工業会にカード及びカードシステム用語 JIS 原案作成委員会(以後、用語 JIS 委員会という)を設置した。この委員会は、カード有識者の外部委員とカード標準化分科会委員で構成され、平成13年5月25日に第1回用語 JIS 委員会を開催し、平成13年1月21日の第8回用語 JIS 委員会まで原案作成を行った。平成13年11月に、当工業会のISO/IEC JTC1 SC17(カード及び個人識別)国内委員会(以後、SC17委員会という)及びカード及びカードシステム部会に中間成果を提供し、コメント募集を行った。

JIS X 6901 カード及びカードシステム用語原案の概要

ISO/IEC JTC1/SC17 関連の用語を主として収集した。

原案は、『カードシステム』、『カード関連』、『用途で分類したカード用語』及び『技術に関する用語』カード関連用語を以下の4つに区分した。

『カード関連』は、『カード一般』、『カード機器』、及び『セキュリティ』に区分した。

『技術に関する用語』は、『磁気カードに関する技術用語』、『外部端子付き IC カードに関する技術用語』、『外部端子なし IC カードに関する技術用語』、及び『光メモリカードに関する技術用語』に区分した。

また、JIS としての効力はないが、解説に用語区分の出発点となったカード分類表、及び使い易さのために五十音索引と英語索引を掲載した。

(3) 今後の活動

カード関連技術は急速に進歩しているため、ホームページから最新標準化動向の発信を増やすことである。ISO 及び JIS 規格の相対表の作成、カード関連の標準化ニーズの調査などを予定している。次に、『JIS X 6901 カード及びカードシステム用語』の5年後の見直しを想定したカード関連用語の収集と用語の公開である。

また、カード部会が担当している JBMS-56、JBMS-57 及び JBMS-58 について改版又は廃止を含めた見直しを行う予定である。

2.3 流通情報システム機器部会(技術分科会)

(1) 活動概況

ECR・POS 製品アセスメントマニュアルガイドラインの作成

- ・平成 13 年 3 月度より部会技術分科会にて循環型市場システムへの取り組みの一環として ECR・POS の製品アセスメントマニュアルの作成及び検討を推進。
- ・平成 14 年 5 月末までに完了予定。

二次電池の回収、リサイクルへの対応

- ・平成 13 年 4 月 1 日より施行された資源有効利用促進法に基づく二次電池の回収、リサイクルへの ECR・POS の取り組みについて現状と課題を整理した。

JBMS-18 (金銭登録機の用語) 及び JBMS-23 (金銭登録機の仕様書様式) の改訂作業

- ・平成 13 年 12 月に JBMS-13, 23 について部会技術分科会による改訂作業及び標準化センター JBMS 推進小委員会による審査が完了し正式発行された。

(2) 主要成果

JBMS-18、JBMS-23 について改訂版の正式発行が出来たこと。

ECR・POS 製品アセスメントマニュアルガイドラインの概要がほぼまとめられたこと。

(3) 今後の活動

ECR・POS 製品アセスメントマニュアルガイドラインの継続審議及び発行
(平成 14 年 5 月発行を目標に推進)

2.4 モバイルシステム部会(標準化分科会)

(1) 活動概況

Project18021-WG国際標準化状況

MOPA標準をもとにしたモバイルツールのためのユーザインタフェース規格を、ISO/IEC JTC 1/SC 35/WG 4 に提案しProject18021 として審議され、いよいよ制定の運びとなり、「ISO/IEC JTC1/SC35-SC35N0376」として、2002年2月15日付けでISOから出版された旨、SC35事務局のフランスから連絡があった。

これにより 国際規格化の活動は終了し、今後は、引き続き予定されているJIS化の活動に協力して行く。

位置・意味情報連携規格と位置情報URLの普及検討

位置・意味情報を記述する規格について、POIX/G-XML/Vカードの相違と標準化へのステップ案を作成した。

審議検討の結果、位置付き情報テンプレートを標準化すれば、情報提供者、運用企業にとって有効であり情報コンテンツの拡大につながるとの意見で一致した。従って、G-XMLを推進するデータベース振興センター、POIX推進のMOSTEC責任者と打ち合わせ、3団体で標準化の可能性を打ち合わせることにした。

(2) 主要成果

・日本から提案したモバイルツールのためのユーザインタフェース規格が「ISO/IEC JTC1/SC35-SC35N0376」として、2002年2月15日付けでISOから出版された。

(3) 今後の活動

ISO/IEC JTC1/SC35-SC35N0376のJIS化を平成14年度に行う

位置・意味情報の普及拡大を促すべく、関係規格を推進する諸団体と協議しながら記述の「規格化又はテンプレート化」の可能性を調査検討する。

2.5 データプロジェクタ部会

(1) 活動状況

・データプロジェクタ仕様書様式の JIS 原案を平成 13 年 12 月末までに完成し、経済産業省に提出。JIS 原案が JIS 制定された後、ファーストトラックで ISO 規格化にするため、JIS 原案の英訳を完了した。

2.6 ページプリンタ部会

(1) 活動状況

・ページプリンタの表示に関する基準・施行規則・解説案を作成し、ガイドラインとして制定。
・プリンタ用語（JBMS-50）の見直しにあたって、カラー用語も含めた新 JBMS-50 を作成するために、会員各社のプリンタ用語を持ち寄って審議し、新しい用語の抽出作業を行なった。

[付録] 標準化委員会の対外活動

付-1 JBMA 標準化活動成果報告会の開催：

2001年7月19日、「ISO 事務機械国内委員会、事務機械工業会標準化センター、カード及びカードシステム部会・合同成果報告会」を開催した。132名の参加者（事務局を含む）があり、経済産業省からも2名の出席があるなど、大きな成果を上げた。実施要領の概要は以下であるが、標準化センターからは下線部の2件の発表を行った。

1. 日 時 平成13年7月19日（木）13:00 – 17:00
2. 場 所 東京・麹町「弘済会館」4F「萩の間」東京都千代田区麹町 5-1
3. 全体テーマ 「オフィス情報システムの現状と展望」
4. プログラム：
 - ・主催者挨拶
 - ・活動と報告会趣旨説明 * 標準化センター * ISO * カード及びカードシステム部会
 - (1) 「ユニバーサルデザインを巡る最近の動向」 門田（添付資料1参照）
 - (2) 「カラーマネジメントの標準化動向」 桑山（添付資料2参照）
 - (3) カード部会需要予測報告
カード部会 R・W 需要予測報告
 - (4) 「非接触 IC カードの動向と標準化」
 - (5) カード部会標準化分科会報告
カード部会海外活用事例報告
カード部会普及促進 WG 報告

以上

付-2 SC 28 国内委員会主催「アジア太平洋セミナー」の支援

2001年11月12日から16日、アジア各国のISO/IEC JTC 1 関係者を招き、「アジア太平洋セミナー」が SC 28 国内委員会が開催する経済産業省の補助金事業として開催された。海外からの参加者は、中国3名、インドネシア2名、韓国2名、マレーシア2名、フィリピン2名、タイ2名の合計13名であった。最終日の研修に 相馬 標準化センターセンター長が参加し、交流を行った。



付-3 JCIA 日本写真機工業会フォーマット分科会への参加

日本写真機工業会フォーマット分科会において、デジタルスチルカメラのファイル形式である Exif 2.2 の審議が行われるに当たり、カラープリンタに関連の深い内容であることから JBMA 標準化センターセンター長名で参加の要望を伝え、審議にカラーマネジメントプロジェクトのメンバーがオブザーバ参加した。

この規格は、2002 年 4 月付で、JEITA CP-3451 「デジタルスチルカメラ用画像ファイルフォーマット規格」として発行された。